

令和5年1月吉日

保護者の皆様

家庭数

江東区立辰巳小学校
校長 松下由美子

令和4年度 保護者アンケート結果について

令和4年度の学校教育の評価の1つとして、保護者アンケートを行いました。ご多用の中ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

今年度も、ほぼ同じ項目で教職員と児童にも言葉を変えて同様のアンケートを実施し、三者の比較を行いました。

結果の集計ができましたので、本校の教育活動及び学校運営に関する評価をまとめました。ご報告いたします。

1 アンケート回答件数

回答数 教職員8名 保護者163名 児童262名
回答率 保護者 60.8%
回答期間 令和4年12月8日～12月31日

2 アンケートの結果から

【全体分析】

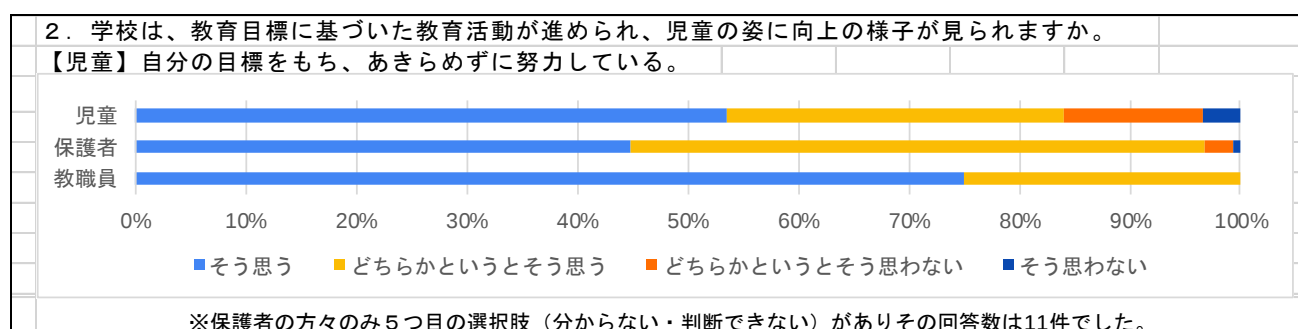
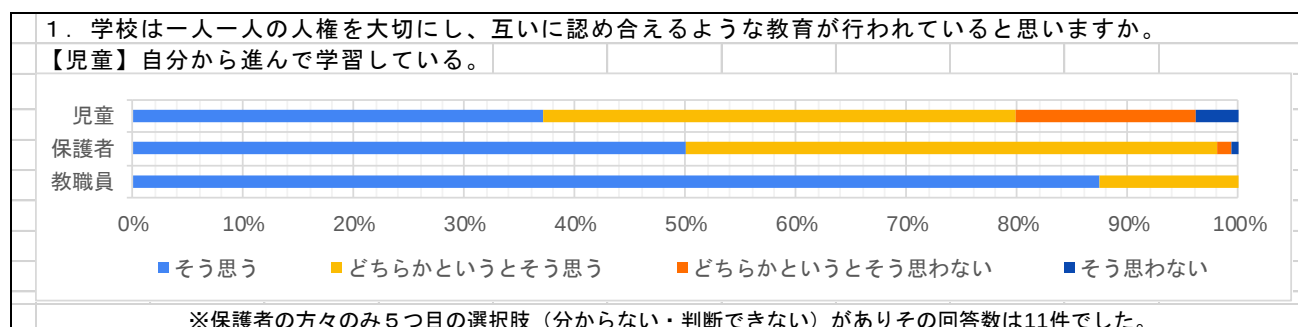
全体として「そう思う」「どちらかというと思う」の評価の平均が91.3%（昨年度89.8%）と昨年度から微増し、概ね肯定的な評価でした。

今年度の結果と昨年度を比較してみると、Aの「そう思う」は51.3%から54%へと増加し、Bの「どちらかというと思う」は38.5%から37.3%へと減少しています。

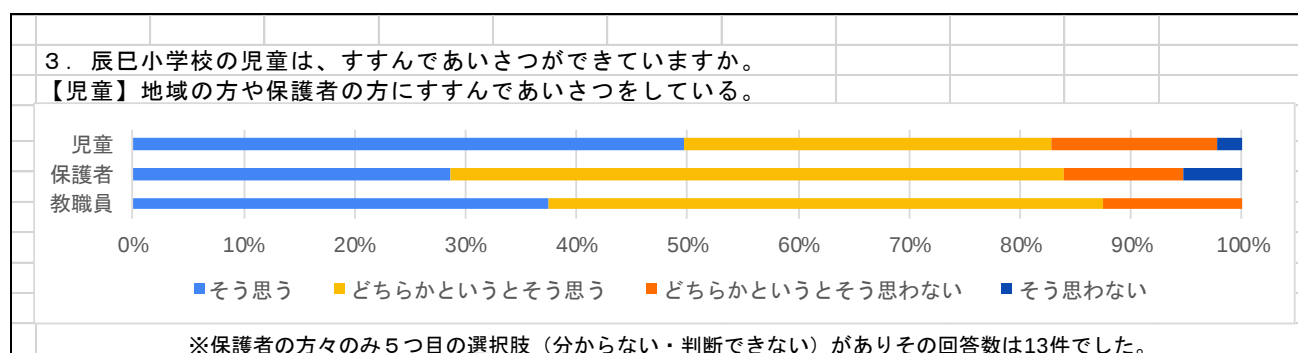
また、Cの「どちらかというと思わない」は5.2%から6.7%になり、Dの「そう思わない」は1.8%から2.0%となりました。

今年度は昨年度と比べ学校行事が徐々に再開されましたが、全体において、昨年度とほぼ同等の評価でした。

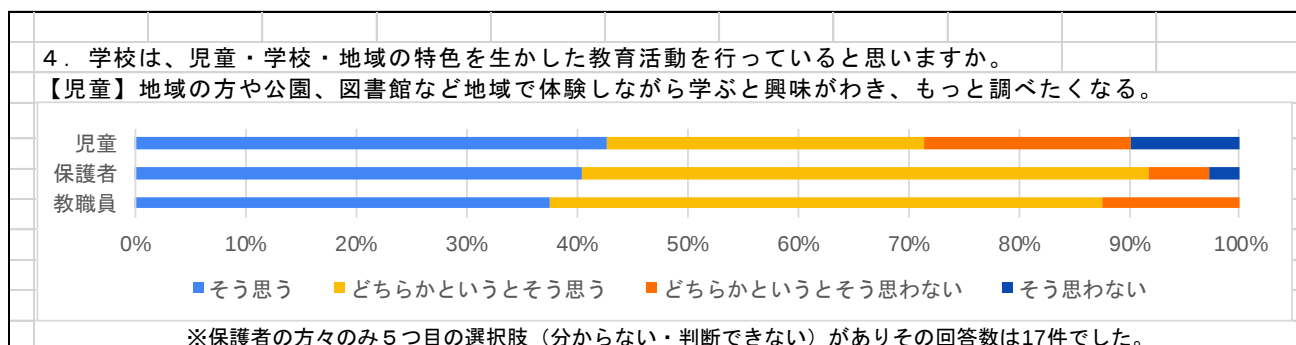
3 集計結果から考えられる課題と今後の取組等



1, 2の設問は学校の教育目標に関する項目です。昨年度に引き続き、豊かな自然、幼稚園併設校、異学年交流などの特色を生かし、こどもたちが学ぶことに興味・関心をもち、粘り強く学習に取り組むことができるよう、できることを工夫していきます。また、多様な他者と協働することで本校の教育目標である「にこにこ 元気に やりぬく子」の育成に努めてまいります。

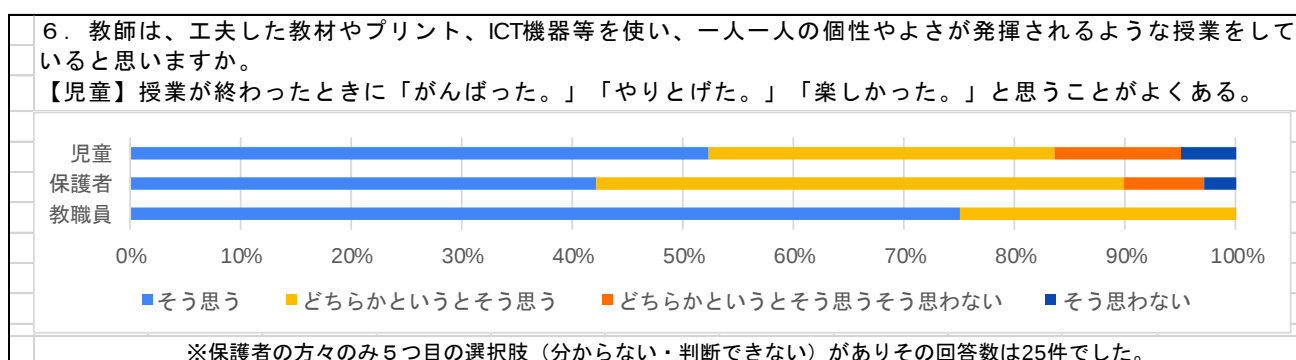
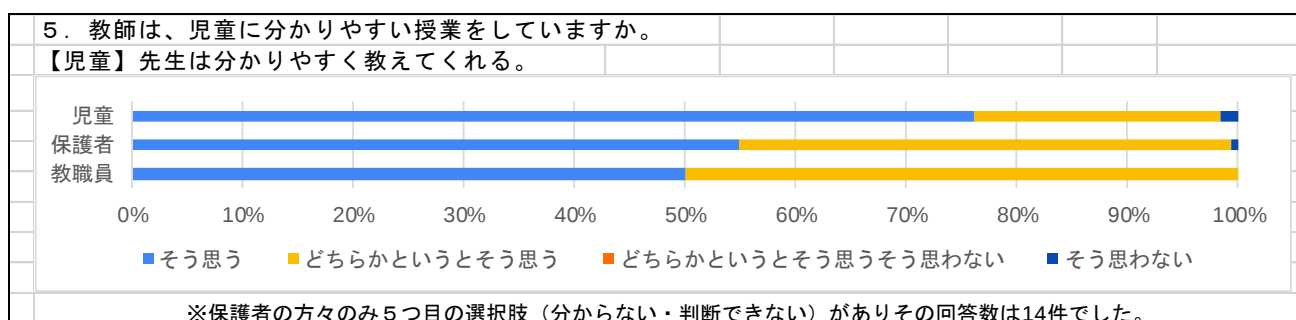


8割以上の児童が挨拶を意識し、8割以上の保護者が挨拶を評価している結果が出ています。一方で、自由意見の中では「ストップさんに挨拶しない子が多いように思う。」「こちらから挨拶しても、無視された。」というご意見もあります。人と人とのつながりの基本でありコミュニケーションの基本である「あいさつ」を自分からしっかりとできる児童を育成するために、来年度も引き続き、学校だけでなく地域や家庭に協力いただき、取り組んでいきます。



この項目は保護者と教職員の約9割が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答しています。今年度、生活科で商店街探検や学区探検を行ったり、精密機械工場やスーパーマーケット、新江東清掃工場等へ社会科見学に行ったりしました。また、NPOの方や障害をもった方をゲストティーチャーとしてお招きし、交流・体験活動も実施しました。こどもたちの感想には、実際に生の声を聞き、体験することでは得られない感動や学びが表れていました。

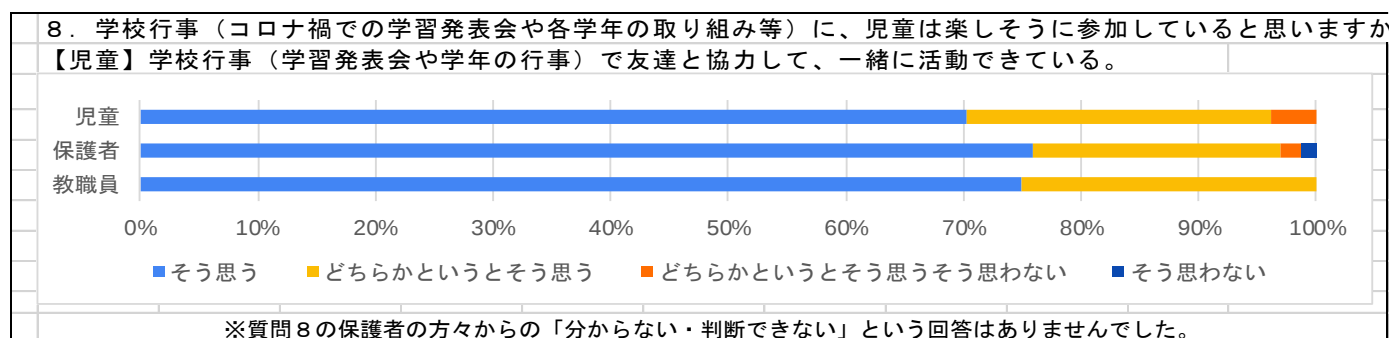
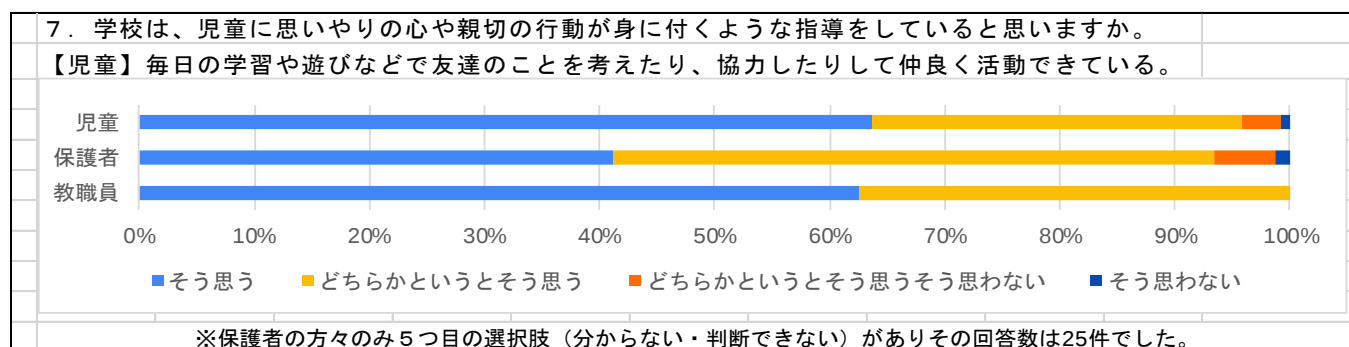
辰巳小の地域には、教育活動に生かせる施設や自然がたくさんあります。地域の文化的・社会的な教材を活かした体験的な学習をこれからも継続していきます。



学習について「先生は分かりやすく教えてくれる」の設問には10割近くの児童が「そう思う」「どちらかというと思う」と回答しています。しかし、「達成感をもつことができたか」の設問には「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答している児童もある程度います。

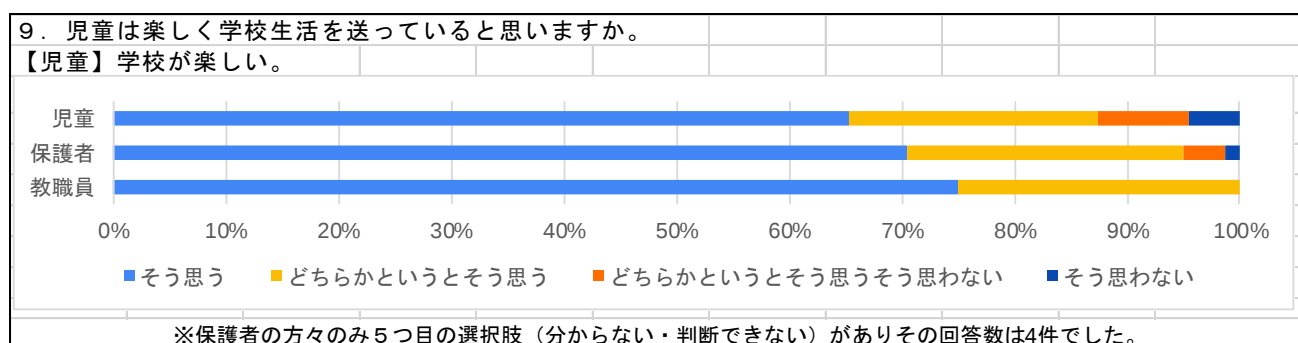
こども自らの思考力、判断力、表現力を育成するために、授業では個人で考える時間、全員で考えを共

有し、練り上げる時間を設定します。一人一人の児童の実態に応じた指導を行うとともに、基礎・基本を確実に定着させて「できない」「わからない」をなくし、児童の自信と学習満足度を向上させる授業研究を行っていきます。

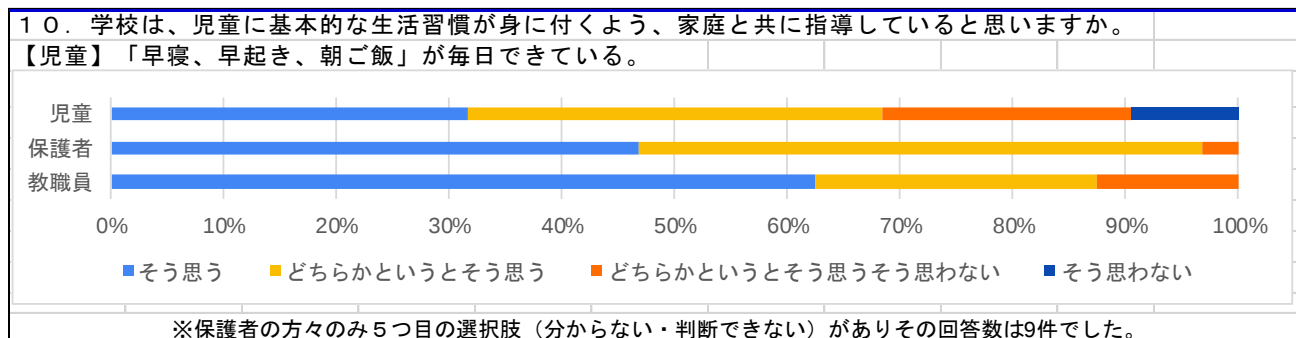


7の設問と8の設問では9割以上の児童や保護者から、「そう思う」「どちらかというと思う」の評価がありました。今年度も、コロナ禍の中で感染症対策をとりながら、運動会や学習発表会等、規模を縮小し工夫して行事を実施しました。そのような環境でしたが、児童、保護者、教職員共に9割以上がやりがいや成果を感じていたといえます。

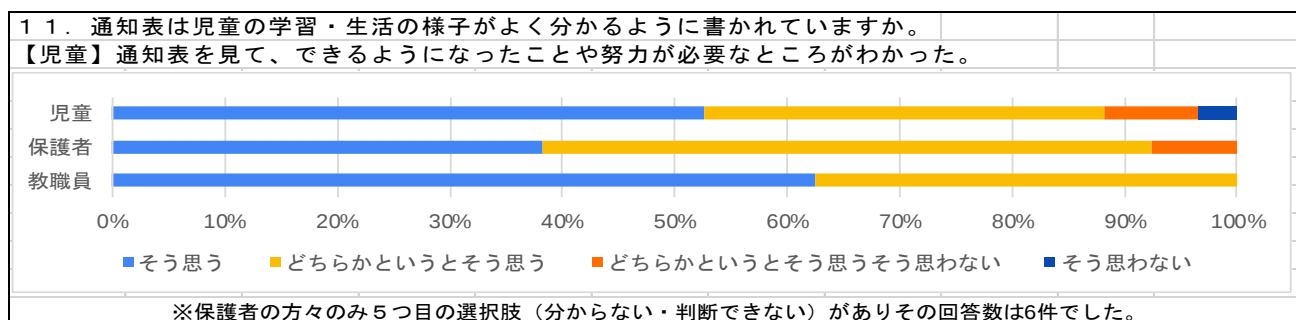
引き続き、学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、辰巳小への所属感や連帯感を深めるとともに、充実感や成就感、互いに協力してより良い学校生活を築こうとする態度を養っていきます。



ほぼ9割の児童・保護者が児童の学校生活を楽しいと感じている一方で、「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答している1割強の児童が見られました。引き続き学習での達成感や、他者と関わる楽しさ、友達と協力して一つのことをやり遂げる喜び等を味わわせるよう実践していきます。児童が集団の中で学び、生活することの心地よさをもっと実感できるように、そして生きる力を育ていけるように、工夫・努力を続けていきます。

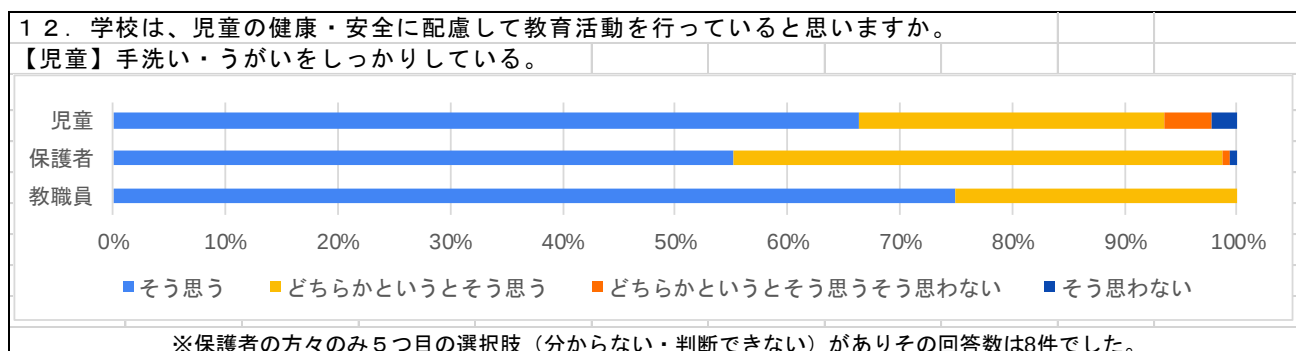


こどもたちが健やかに成長していくためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。設問を見てみると約3割の児童が「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答しています。「よく体を動かし、よく食べ、よく眠る」という成長期のこどもにとって当たり前で必要不可欠な基本的な生活習慣の意識を高める必要があります。学校では毎朝の健康観察でこどもの異変はないか、こまめにチェックしていきます。ご家庭でも学習習慣や生活スタイルについて今一度確認をしていただき、学校と互いに情報共有して指導を行っていきたいと思います。

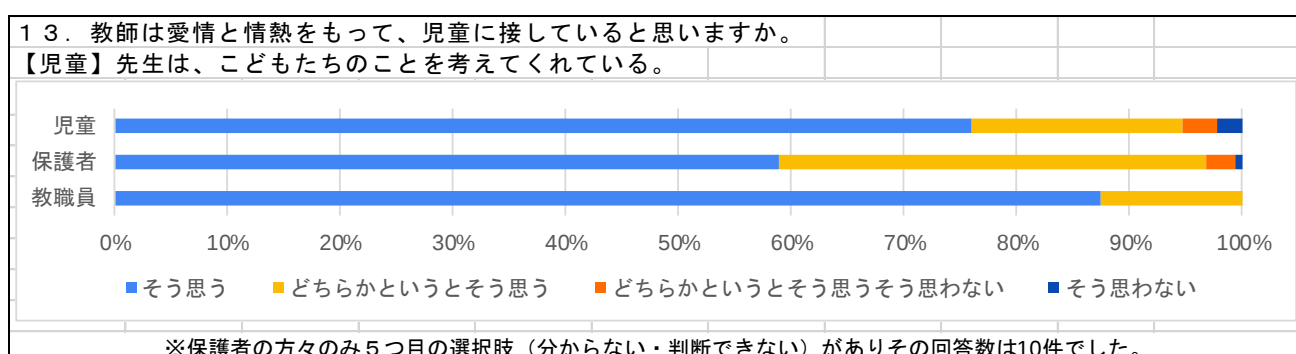


担任は、こどもたち一人一人に成果や課題について伝えながら通知表を渡しています。テストだけでなく日々の学習の取組の様子も含め、お知らせしているところです。

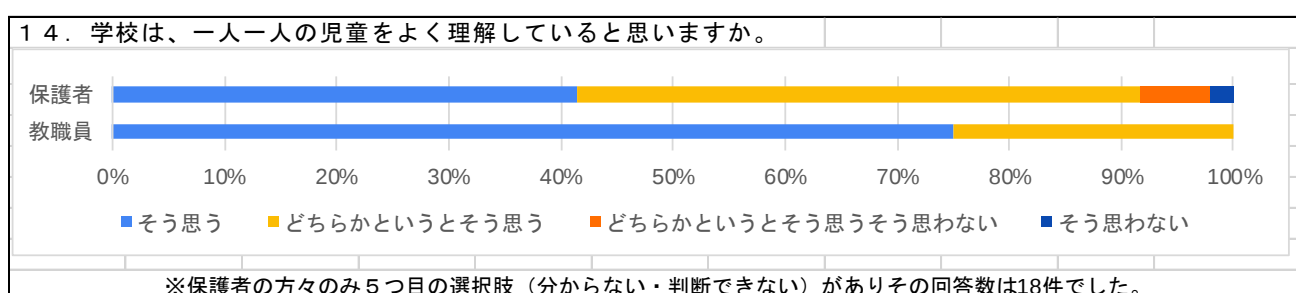
今回のアンケートの自由記述欄で「通知表は『～という行動から』という表現など、具体的に書いた方が分かりやすい。」という趣旨のご意見をいただきました。所見欄は、保護者の皆様に分かりやすく児童の姿が目につくよう、記述する必要があります。限られた所見欄ですが、今後も、こどもの学習や活動の様子を細やかに見取り、成長がより伝わるような書き方を工夫していきます。



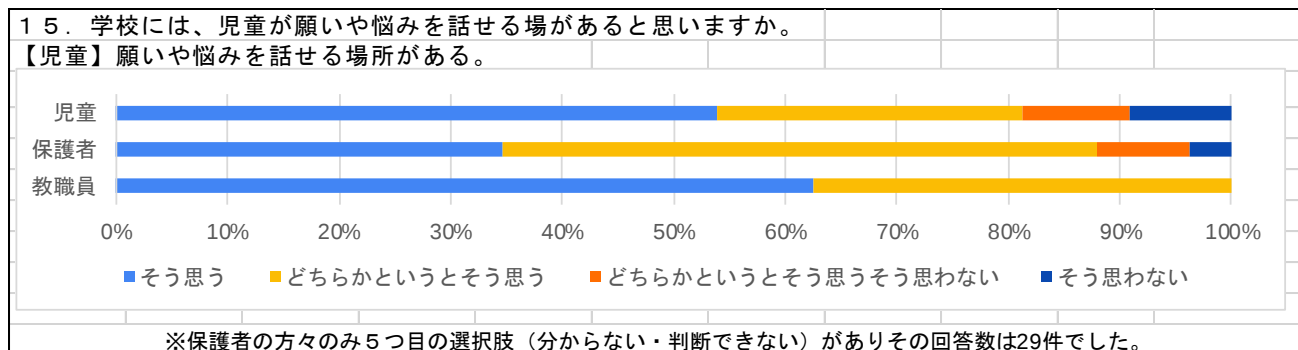
保護者、教職員共に「そう思う」「どちらかというと思う」の回答が9割以上でした。しかし、こどもの数値を見ると約1割の児童が「そう思わない」「どちらかというと思うそう思わない」と回答しています。こどもたちの健康や安全に十分配慮するとともに、コロナ禍において、こどもたち自身が健康や安全を守るために主体的に行動できるよう、手洗い・うがいの継続的な啓発や安全指導を行っていきます。



教師にとって一番基本になる部分であると考えます。昨年度同様9割以上の児童や保護者から良好な回答を頂きました。しかしながら、若干の児童から「どちらかというと思うそう思わない」「そう思わない」という結果も出ています。教師が愛情と情熱をもってすべての児童に接し、こどもたちのことを最優先に考えて教育活動を行います。また、こどもの変化にすぐ気付けるよう、ご家庭との連携も密に取っていきたいと考えています。今後ともご協力のほどお願いいたします。

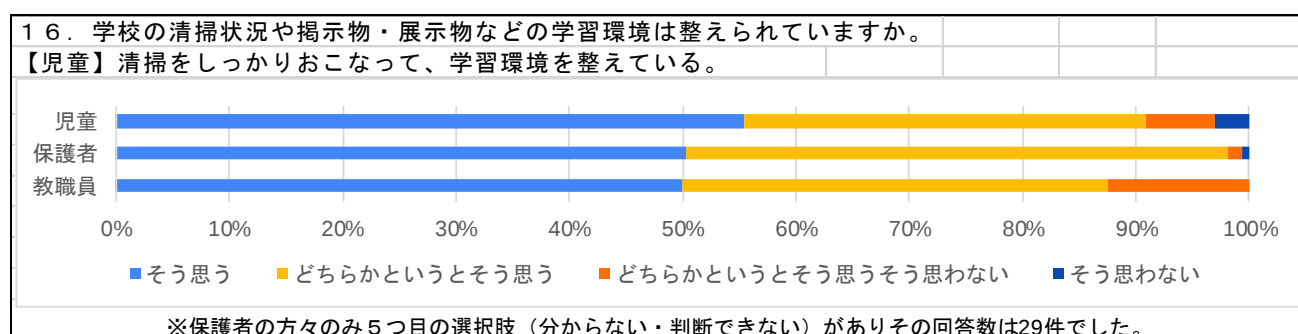


こどもの変化に早く気づき、課題の早期解決に向けて担任だけでなく、教職員全員で各学級のこどもたちの様子などを共通理解し指導にあたっています。また、何か問題等が起こった時には、校内委員会で対応等を協議しながら組織的に取り組んでいます。そのため教職員のアンケートは肯定的な評価のみとなったと思います。今後も、こどもたちの安心・安全を第一に児童理解に努めてまいります。

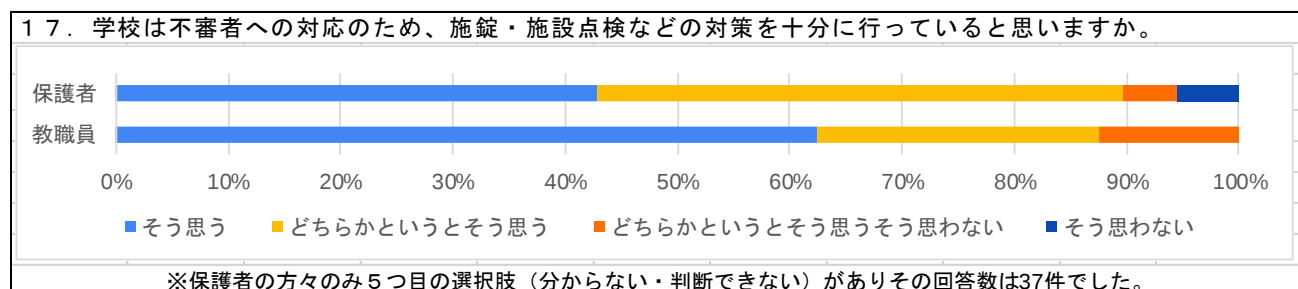


年間を通して児童相談期間を設け、全学年で担任が一人一人と面談しました。教員の評価では「どちらかというと思う」「そう思わない」という評価は0%でした。しかし、児童や保護者の評価は「どちらかというと思う」「そう思わない」が1～2割に及ぶことをしっかり受け止め、いつでもこどもの話に耳を傾けていきます。

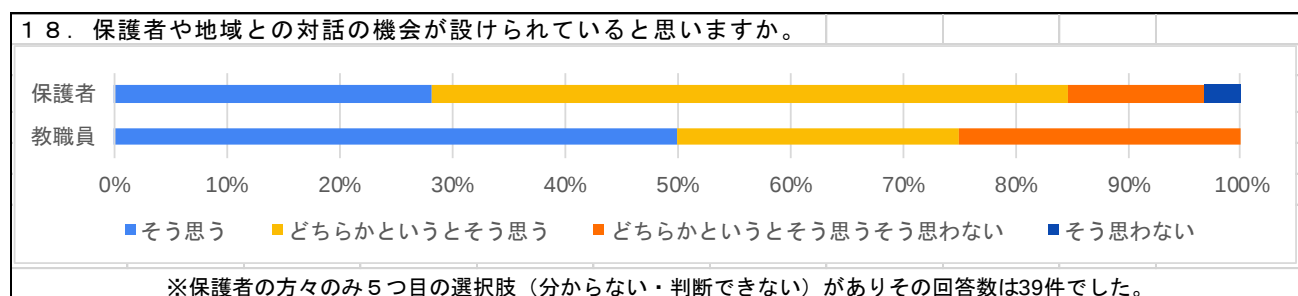
また、教育相談室の利用についての周知や担任には話せないと思う内容には、スクールカウンセラーや他の教員に話すことも大切であると伝えていきます。引き続き、いつでも相談できる体制をつくるとともにご家庭との連携を図っていききたいと思います。



清掃活動は、特別活動に位置付けられており、環境美化・環境保全の一環として行われるものです。学校における清掃指導は、単に施設や設備の保全だけを目的とするものではありません。学習の場を「きれいにする」ことを通して「仕事をしてよかった」という満足感を味わわせる機会でもあります。こどもたちにとっては「清掃の時間」は「やらされる」という気持ちになりがちです。自発的に「進んでやろう」という気持ちに高められるよう、清掃の手順や分担を明確にしたり、教職員も率先して清掃活動を行ったりして日々の指導に当たっていきます。

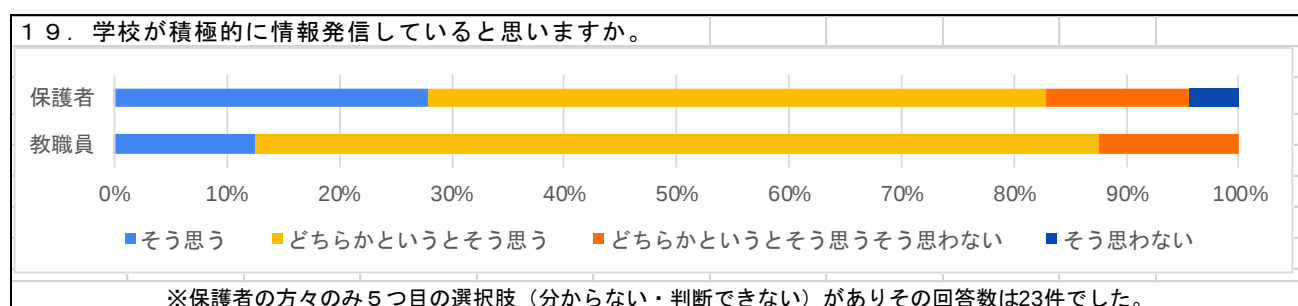


本校は駅が近く、施設面の安全対策については不安に思われている方も多いと思います。門扉ですが、出入りのないときは基本的には施錠しており、インターフォンで訪問者を確認してから解錠しています。児童の下校時は、用務主事が校門に立って不審者が来ないか見守っています。また、先日は防犯カメラの位置を修正し、より訪問者の動きを広範囲に捉えられるよう改善しました。今後も教育委員会や警察署と情報を迅速に共有し、こどもたちの安全のためさらに改善していきます。



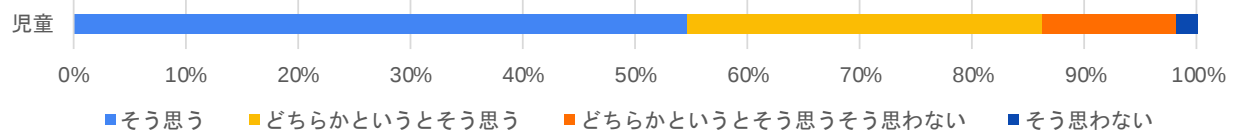
この設問では、コロナ禍ということもあり、2～3割の教職員が「そう思わない」「どちらかというと思うそう思わない」と回答しています。

本校では保護者の方との対話の機会として、個人面談や保護者会を設けていますが、自由記述欄では「個人面談の10分という時間は短いと思う」というご意見もいただきました。保護者の皆様とは、個人面談だけでなく、必要があればできるだけお話する時間を取りたいと思っています。担任やスクールカウンセラー、養護教諭、管理職までお問い合わせいただき、可能な限り対応したいと存じます。児童の様子を学校とご家庭とで共有し協力しながら、より良い成長へ繋げられるよう、尽力していきます。



学校の情報発信に関する2つの設問に、「どちらかというと思う」「そう思わない」と回答した保護者の方が約2割います。今後も、特にコロナ禍において学校の様子が少しでも伝わるよう、学校だより、学年だより、HP、保護者会等を通して、各学年のこどもたちの活動の様子や行事での様々な取組等、積極的に情報を発信していきます。皆様と一緒に、今後も一体となってこどもたちの教育活動をすすめるよう取り組んでいきます。

20. 【児童】クロムブックを使って、学習している。



ほとんどの児童が、学校でも家庭でも、クロムブックを使って学習することが多いようです。授業では、ミライシードのドリルパーク等で個別最適な学びを、オクリンクやムーブノート、ジャムボード等で協働的な学びを実践しています。他にも、写真・動画撮影により自身や友達の課題を見付け、解決方法を考えたり、ソフトを用いて作曲や描画をしたり、と技能的な教科でも使用しています。今後も児童の将来を見据え、ICTを道具として活用していくような教育活動を実践していきます。